

2番、帰山です。質問を許されましたので、4点につき質問を行わせていただきます。

最初に、観光施策についてお伺いいたします。

当市の今後の産業と観光の振興は、今年度の予算編成にも見られるとおり、まち中観光が柱とされています。中核施設であり、近代化産業遺産のはたや記念館も間もなく開館です。ことしの勝山市観光のメイン施設であり、今後の勝山市の観光がどのように展開されるのか、注目を集めるところです。

同記念館は、その設置目的に、市指定文化財であり、国の近代化産業遺産として認定された建物を保存し、後世に残すとともに、市民と来訪者との交流機能、観光の起点としての情報の発信機能及び繊維のまち勝山の歴史と文化を紹介するミュージアム機能を持たせて活用し、勝山市の活性化を図るため、はたや記念館「ゆめおーれ勝山」を設置するとあります。

また、開館に向けて中間検討報告書においても、単なる遺産にとどまらず、まち中のにぎわい拠点として活用されることで勝山市民や勝山を訪れる観光客にとって、より価値のある施設となると考えられています。つまりまち中観光の起点を目的とする施設でもあるわけで、単独施設としても観光客誘致機能を持つ施設を目指しています。

一方、さまざまな機会において、当市の他観光地から同記念館に観光客誘致を図ると報告されており、資料によると来館予想者数の3分の2は、他の観光地からの回遊客とされています。つまりまち中観光の主な観光客を他観光地からの回遊客としているわけです。さて、資料によると、その回遊率は3.4%です。この数字について、必ず保証された数字ではないと思います。ならば、分母を大きくすることも考えるべきではないでしょうか。

ことしのゴールデンウィーク期間中の福井県立恐竜博物館は、交通渋滞もなくスムーズでした。しかし、入り込み数は前年度並みであり、最近のレジャーの流れから見ると伸び悩みとも考えられます。恐竜博物館は、ミュージアム施設としてのみならず、学術研究機関としても勝山市のイメージ形成に貢献しています。残念なことは、公園内の単独施設であることです。このために、今後著しい観光客の増加を見込めないかもしれません。

そこで、勝山市として、福井県が来年開館10周年のイベントを予定する恐竜博物館のある、かつやま恐竜の森内に新規の誘客施設を設置し、観光客数の絶対数をふやすことを考えることもできると思います。福井県は、ダイノソーバレー構想に見られるように、同博物館に観光資源としての可能性を見えています。当市としても、かつやま恐竜の森を有効活用するためにも、福井県に対してテーマパークなどの新規施設の設置を要望すべきと考えます。県の一部には、施設としての魅力アップを考える方向もあるようです。お考えを伺います。

次に、勝山市における教育の連続性についてお伺いいたします。

先般、将来的に福井県立勝山南高校を廃止し、跡地を養護学校として再利用を検討する方針が示されました。はたや記念館が新しい歴史を歩み始める中、勝山の繊維産業を一方で支えた勝山南高校の廃止は大変残念なことです。そして、これにより勝山市内の普通科高校は1つとなります。よきにつけ、あしきにつけ、現代の文化や流行を牽引している機能がまた1つなくなるわけです。

実は今に始まったことではないのですが、勝山市には福井大学、県立大学等が隣接はしているものの、高校を卒業した時点で、勝山市内だけではなく、奥越地域内の進学という選択肢がないのです。高校を卒業すると同時に、市外へ居住地を移すことがごく当たり前のことです。現在の勝山市の教育は、ここで切れています。

従来は、名前が示すとおり、高校が高等教育の場でもあったのですが、現在は高校で教育を終了する子供はほとんど見られず、高校卒業生のほとんどが何らかの形で進学する状況であり、一般的には高等教育の概念から遠くなりつつあります。このことを裏づけるように、勝山市の新規職員採用は、新設の категорияにおいても、ほぼ大学卒となっています。

さて、現在、小浜市には、その地域性を生かし、県立大学の海洋生物資源学部が設置されており、1学年50名程度の学生が学んでいます。同市は、かつて人口で勝山と争い、市街地においても、勝山同様、急激な衰退が進む市でもあります。さらに、財政的には、嶺南地域において地理的には不利益がありながら、電力の恩恵をほとんど受けなかった土地です。しかし、最近では福井県の観光施策もあり、時流に乗り、若さと元気があります。

前項にも述べましたとおり、現在、勝山市には恐竜研究のみならず、地質学、生物学の研究を行う施設があります。同施設には学芸員として多くの研究者が従事し、シベリアでのマンモス研究やオーストラリアへの長期の研究に出かけておられるようです。福井県としても、同博物館には大変力が入っていることは間違いありません。

さきにも述べたように、生活の継続性を考えると、高校を卒業後の高等教育機関がやはり勝山にも必要ではないでしょうか。市外に生活させることは家計的にも大変不利です。そこで、お伺いいたします。勝山市に附属研究機関として大学の設置を考えるべきではないでしょうか。お考えを伺います。

3番目に、地域防災体制についてお伺いします。

現在、当市では防災無線が整備されつつあり、既に緊急メールシステムも稼働しており、災害時の連絡体制は著しく強化されました。また、市庁舎をはじめ小・中学校等の耐震補強工事も進んでいます。さらに、今回の6月補正予算案においては、地区から要望のあった地区公民館ホールへのエアコン設置が措置され、昨年度からの簡易印刷機、コピー機等の更新とあわせて、災害時における地区公民館の機能強化も図られています。

当年度当初予算においては、太陽熱発電システムに対する補助金等を実施、今回の6月補正予算案では、さらに推し進めた低炭素社会、循環型社会を推進しています。

ところで、エネファームを御存じでしょうか。いわゆる燃料電池システムです。水素と酸素の化学反応により電気とお湯をつくり出します。メーカーによると、従来型のエネルギーシステムに比較し、CO<sub>2</sub>の排出量が約30%削減されると言われています。

ことしの5月より家庭用の小型の仕様が一般にも発売されるようになりました。これは約700ワットの発電能力と200リットルの貯湯能力を持っています。現在1機当たり320万円と高価ですが、140万円の補助金がついています。全国で2,000か所、県内においても何か所かで実証実験が行われています。市販される機械はLPG仕様です。これを地区公民館に設置してはどうでしょうか。

平常時はコージェネレーションシステムとして動作させ、給湯、発電機であり、二酸化炭素を削減するとともに、エアコン設置による電力消費増にも対応できます。また、非常時には、小さいながらも発電所として動作させて、避難所として、最小限の機能を維持できます。これらをさらに発展させ、非常時の避難拠点確保として官民一体となり、燃料の特性を生かし、炊き出しも可能なシステムが仁愛大学への導入が検討されているようです。昨年度までは、その補助の対象が民間のみでしたが、本年度からは公立にも拡大されたようです。設置することにより公民館の機能強化と同時に、環境にも貢献すると思いますが、お考えを伺います。

最後に、福井社会保険病院についてお伺いします。

本年当初に独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構に全国の社会保険病院の民間への売却を進めるように指示する旨の報道がありました。その後、社会保険病院については、ほとんど情報がなく、福井社会保険病院を地域の中核病院とする市民は、不安の中に生活をしています。同病院は、医療としてのみならず、雇用の場としても大きい存在と考えます。他県においては、地域の有力医療法人が買い取るらしいなどのうわさが流れたりもしていますが、福井社会保険病院において現在の状況をお伺いいたします。

以上で壇上よりの質問を終わります。

○議長（笠松捷多朗君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 登壇）

○市長（山岸正裕君） 観光施策についてお答えをいたします。

当市には、年間140万人余りの観光客が訪れております。しかし、県立恐竜博物館、スキージャム勝山、白山平泉寺などの主要施設は市街地の周辺に位置しておりまして、中心部への来訪者は非常に少ない現状であり、まち中への誘客が課題となっております。そのような課題を打破するために、国の近代化産業遺産である、はたや記念館「ゆめおーれ勝山」をまちなか誘客の核として、7月18日に開館する運びとなりました。

開館まで1か月となり、建物内部、ゆめおーれ広場の芝の緑、緩やかな流れの水辺空間、そして建物を浮かびあがらせる夜間照明などに市民の皆様の関心も高まってきています。市民総参加のオープニングイベントも、現在企画されており、また、関係団体や地元商店街とも連携をいたしまして、まちなか誘客のもてなし準備に万全を期しているところであります。

当記念館への来館者の見込みにつきましては、恐竜博物館、スキージャム勝山、白山平泉寺、越前大仏、勝山城博物館などの既存施設からの入り込みに加えて、各種イベントや学校等の社会科学習や遠足による来館を期待し、現在PRに努めているところであります。したがって、かつやま恐竜の森や恐竜博物館へ来訪者が増加をすることは願うところであります。そのための方策として、これまでも恐竜博物館を中心に関係団体が集まり、活用連絡協議会が組織され、誘客促進、交通手段の確保、さらには交通混雑の解消などを協議してまいりました。

来年は恐竜博物館開館10周年を祝う記念の年であり、福井県が力を入れている恐竜博物館の独自企画とともに、当市においても、「恐竜王国ふくい」そして勝山をさらに全国へアピールするために市全体で大いに盛り上げていきたいと考えております。県事業によって、勝山市荒土町新保のロードパーキングの一角に、巨大なブラキオサウルスのモニュメントの完成が近づいており、恐竜王国勝山の玄関口にふさわしい景観に期待が高まっています。また、本日の新聞報道によりますと、県では開館10周年を迎える新たな目玉として、米国で発掘された草食恐竜カマラサウルスの全身骨格化石を購入すると発表されており、さらなる期待が高まるところであります。なお、お尋ねの新規の誘客施設の整備については、県からは今のところ正式に何も聞いておりませんので、お答えはできません。

○議長（笠松捷多朗君） 齊藤教育部長。

（教育部長 齊藤雅昭君 登壇）

○教育部長（齊藤雅昭君） 次に、教育の連続性と充実についてお答えをいたします。

勝山市に、附属研究機関として大学の誘致を考えられないかとお尋ねでございますが、大学全体の

最近の動きを見ますと、国立大学におきましては、大学の統合や国立大学法人化が進んでおりますし、新学部等の設置に関しても設置認可を行う国は、大学の質や大学経営の観点から慎重になっている傾向にあります。

また、私立大学におきましても、新設される大学がある反面、少子化などから応募者数が定員に満たず、募集を取りやめた大学もあるようでございます。このように、大学の新設誘致にかかる新たな設備投資は、大学経営に大きな影響を及ぼすことや資金調達などから、難しい問題があると認識をいたしております。

○議長（笠松捷多朗君） 山根総務課長。

（総務課長 山根敏博君 登壇）

○総務課長（山根敏博君） 次に、地域防災体制についてお答えします。

御質問のエネファームについては、家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの愛称であり、LPGガス、灯油などから燃料となる水素を取り出し、空気中の酸素と反応させて発電するシステムで、CO<sub>2</sub>の大きな削減につながる新しい発電システムとされております。このシステムは、先月より数社が販売を開始いたしました。補助金制度があるものの、まだまだ高価であり、普及には時間を要すると考えております。

このシステムを地区公民館に導入することの御提案ですが、当該システムは、実証実験も行われておりますが、開発段階にあり、また発電量も限られており、そのような意味からも、今後さらに改良が進むものと考えます。また、このシステムは一般的に停電時における稼働については工夫も必要であることなど、今後の改良を注目していきたいと存じます。

○議長（笠松捷多朗君） 石蔵健康長寿課長。

（健康長寿課長 石蔵ふじ江君 登壇）

○健康長寿課長（石蔵ふじ江君） 次に、福井社会保険病院についてお答えいたします。

福井社会保険病院の現状についてですが、現在、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構（RF<sub>2</sub>O）が所有している病院を、所在する地域の地方公共団体の意見を聴取せず、譲渡することはありませんし、御質問にあったようなお話は全くございません。

平成21年3月6日付けで、厚生労働大臣からRF<sub>2</sub>Oへ通知したところでは、RF<sub>2</sub>Oにおける譲渡の基本的な考え方として、年金資金等の損失の最小化を図ること及び地域の医療体制が損なわれないように十分配慮することとする。また、厚生労働省における譲渡対象施設の選定については、地域医療の確保を図る観点に立って、各社会保険病院が地域医療に果たしている機能を踏まえつつ、所在する地域の地方公共団体の意見を聴取した上で、譲渡対象となる社会保険病院を選定し、その名称をRF<sub>2</sub>Oに通知する等とあります。

したがいまして、今までも議会におきまして答弁してきましたとおり、奥越地域における望まれる医療体制のあり方を早期にまとめることが重要であります。

先日、大野市長とともに、福井社会保険病院の存続についての要望書を、大野・勝山地区広域行政事務組合として、知事に提出したところです。これまでは、勝山市、大野市が個別に要望などを行っていましたが、今後は両市が足並みをそろえ、福井社会保険病院の存続に向けて国、県に要望するとともに、福井県、大野市、福井社会保険病院など関係機関の参画をいただきながら、なるべく早い時期に奥越地域の医療体制のあり方についての研究会を発足するため、協議を進めているところでございます。

また、福井社会保険病院には、現在250名余りの勝山市民の方が雇用されており、また、病院の経営状況も安定して推移している状況です。雇用の場の確保という観点も含め、よりよい形で病院が存続できるよう、関係者とともに研究してまいりたいと考えております。

○議長（笠松捷多朗君） 2番。

○2番（帰山寿憲君） それでは、ちょっとまず観光政策について1点だけお伺いいたします。

お答えの中で、県から話がないのでお答えできないという御回答がありましたけれども、それでは、県から話がない限り、一切勝山側からは要望しないという考え方でよろしいのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（笠松捷多朗君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 登壇）

○市長（山岸正裕君） そのとおりです。

○議長（笠松捷多朗君） 2番。

○2番（帰山寿憲君） ありがとうございます。

それでは、第2点、勝山市の教育における連続性についてですけれども、大学に関しましては、確かに三重県における中京大学、敦賀市における敦賀短大等の撤収・合併の問題ができあがっておりまして、非常に新設は困難だということは重々承知しております。ただし、滋賀県に見られるように、単科大学として特色のある大学が新設され、成功しているという事実もごございます。高校を卒業した子供が、一たん市外に出たとき、再び帰ってくるということが、いかに困難を伴うかというのは、どの市民の方々も十分御存じかと思えます。

例えば恐竜関連の生物学、地質学、そんな学科が勝山にあってもいいのではないかと。また、京都と長野にだけ設置されてる繊維関係の学部、現在、日本では2か所しかない。そういう特色を生かした学部の設置を、大学の誘致が無理ならば、県立大学の学部としてでも、福井大学の学科としてでも、今後の勝山の若者のために誘致を要望することはできないのでしょうか。そのあたり学科・学部の誘致ということでお考えがないか、お伺いいたします。

○議長（笠松捷多朗君） 齊藤教育部長。

（教育部長 齊藤雅昭君 登壇）

○教育部長（齊藤雅昭君） ただいまの再質問にお答えをいたします。

県立大学や福井大学の学部・学科の誘致についてでございますが、これまで当市におきましては、県に対しまして、長尾山総合公園隣接地に、仮称ではありますが、県立大学古生物学部の誘致を要望し、その後、当時の前学長にも意見をお伺いをいたしました。

お話では、古生物学部を新設しましても卒業生の就職先の確保が困難であること、また4年間という短い期間では専門的な指導が困難であること、そして、国立大学でも統廃合が進み独立行政法人化が進められている現状では、県立大学を取り巻く環境が年々厳しくなっていることなどを述べられました。このことから、学部の新設ではなく、恐竜博物館の研究部に仮称大学院古生物学研究科の設置を要望してきたといった経緯がございます。

○議長（笠松捷多朗君） 2番。

○2番（帰山寿憲君） 例えばそこに学部があったとすれば、小学校、中学校、高校を卒業して、そこに目指すものがあると思うんですよね。なければ県外の大学・学部を選択すると、専門学校を選択する

と。あれば、少しでもそういう可能性があると思いますので、今後とも要望だけは続けていっていただきたいなと思います。

あと3つ目の地域防災体制で、エネファームについてですけれども、勝山市として補助金制度をさらに上積みするお考えはないかだけを伺って、質問を終わります。

○議長（笠松捷多朗君） 山根総務課長。

（総務課長 山根敏博君 登壇）

○総務課長（山根敏博君） 再質問にお答えします。

先ほども御答弁申し上げましたとおり、今後の改良等を注目していきたいというふうにお答えをさせていただきましたので、現段階でそういった補助金のことについては考えてはおりません。